



ほけんだより



かのん保育園 2025. 8月号

暑い夏がやってきました。連日の猛暑で、大人も子どもたちも体調管理が大切な季節となりました。子どもたちは夏の暑さにまだ慣れておらず、体温調節機能も大人ほど発達していないため、熱中症や夏バテになりやすい状態です。こまめな水分補給と適度な休息を心がけ、元気に夏を乗り切りましょう。また、夏は感染症も気になる季節です。手足口病やヘルパンギーナ、プール熱などの夏風邪が流行しやすくなります。手洗いを徹底し、体調の変化に十分注意していきましょう！

夏に多い感染症

ウイルス感染によって起こる病気です。他人への感染力も強いので、必ず受診をし、医師の診断を受けましょう。

ヘルパンギーナ

突然の高熱と喉の痛み、口の中の水疱、口内炎が特徴です。症状が軽ければ1~4日くらいで解熱します。



プール熱

プールで感染することもあり、高熱が3~5日くらい続き、喉の痛み、目の充血やかゆみなど結膜炎のような症状も出ます。食事は消化の良い物を食べましょう。



手足口病

手のひら、足の裏、口の中に水疱ができ、発熱することもあります。喉越しの良い物を食べましょう。



流行性角結膜炎

目が腫れ、充血し、普段より多く目やにや涙が出ます。周りの人への感染源となるので、タオルは共有しないようにしましょう。

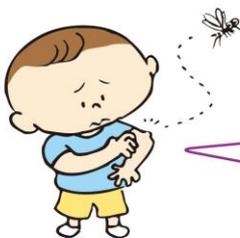
~保護者のみなさまへ~

- kidsly 連絡帳の提出について●
- プール・水遊び・シャワーなどの判断をするため、連絡帳の提出は9時までをお願いします。



とびひの増える季節です

とびひは、夏の疲れが出る8月の終わりから9月ごろに多くなります。虫刺されの跡や傷に、菌が付いて発症することが多いようです。「傷がじゅくじゅくしている」「なかなか傷が治らない」というのがとびひの始まりのサイン。やがてかゆみの強い水ぼうがができます。これをかきこわした手でほかの所をかくと、そこにもとびひが広がります。



主な症状

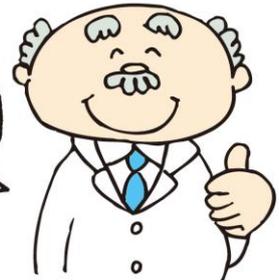
- 皮膚に小指のつめくらいの水ぼうがができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある

家庭での手当て

- じゅくじゅくした部分はガーゼで覆う。皮膚科で処方された薬があれば塗ってから、ガーゼで覆う
- お風呂では湯船につからず、シャワーで洗い流して清潔を保つ
- 湯上がりはこすらずふき取り、薬を塗る



患部が乾燥すれば、うつる心配はありません。じゅくじゅくしていたら、ガーゼで覆いましょう



※保育園での対応※

「とびひ」になった場合は医師の指示のもと患部をガーゼなどで覆って登園し、受け入れの際担任までお伝え下さい。保育中にガーゼが汚れてしまった場合はガーゼの交換をしますので替えのガーゼ、テープ類をお持ちください。